

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271300404
法人名	有限会社 よしおか
事業所名	グループホーム あじさいの家
所在地	〒854-1105 長崎県諫早市飯盛町後田1643番地1 (電話) 0957-48-1972

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	平成20年4月4日

## 【情報提供票より】(H20年1月27日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 8.1 人

### (2) 建物概要

建物構造	平屋造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000~15,500円	その他の経費(月額)	13,500円・実費	
敷金	有( ) 円		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	一日あたり( )			

### (4) 利用者の概要(1月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 78 歳	最高 91 歳		

### (5) 協力医療機関


協力医療機関名	愛野記念病院・西諫早病院・ひさゆき歯科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家族が気軽に訪問できる立地条件の優れたグループホームで、看板もあり解かり易い、景観も違和感無く地域に溶け込み、床暖房・和室の飾り付け・車寄せポーチ・浴室の洗濯干し物の工夫等、代表者の配慮が窺える。開設時の思いは5年目を迎える現在も変わる事無く、認知症への理解を求め地域のリーダーとして活躍されている。開設当初からの取り組みである、職員勤務時間の特選(11:00~20:00)を設けることにより職員が通院に対応できるよう、又、調理担当職員の配置により利用者の思いの受容に努める事ができるよう配慮されている。「ゆとりある心で自分らしく皆仲良く過ごしましょう」の理念に沿って、地域に溶け込んだ家庭的な生活環境の中で馴染みの職員と元気で安心して過ごせるよう支援に努められている。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価後の取り組みとして、倉庫を購入し、保管場所を設け、グループホーム内の倉庫を整理して備蓄品の確保・鍵の取り付け又、浴室内に整理棚を設け、全てに整理整頓が行き届いている。感染症マニュアルに沿って、重点的に留意すべき内容を複写して、常に職員が意識できるよう掲示されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、評価内容を複写して職員会議で話し合い、各職員の意見を集約して取りまとめられている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、現在2回開催され市職員・市会議員・特養施設長・自治会地区長・老人会会長・家族代表2名・管理者・職員で構成されている。内容は、グループホームの活動報告(職員研修実績・老人総会で認知症の理解への配信)やグループホーム連絡協議会・外部評価についての報告、出席者より要望・意見・助言等、双方向的な充実した内容の会議が開催されている。2ヶ月を目途の開催は、業務上、難しい点もあるが努めて開催を予定されている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の訪問時、生活状況の説明や報告を心掛け、利用者が自由に電話連絡を取れるよう支援されている。運営推進会議に家族代表が参加され、要望や苦情等を話す機会となり、安心に繋がる関係の構築が図られている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>代表者は自治会に加入、老人会総会での講師、介護の相談役等地域の高齢者と顔馴染みの関係性を存続されている。職場体験学習で中学生を2名受け入れ、5月に慰問部会と子供会の母の日訪問・子供会のもぐら打ち・芸能訪問等、地域との密なる交流が図られている。</p>

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が、地域の中にとけこんだ生活環境の中で、職員との関わりを大切に、安心して家庭的な生活が継続的に過ごせる様に、職員は日々の介護を意識して、笑顔で明るい支援に努められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関・事務所に掲示され、日々の介護に向けた職員の意識として、理念を振り返り利用者との心の通い合う、温かい介護を、常に心掛けて支援されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者は、地域との交流に積極的で、老人会総会で認知症への理解を求めて講師をされ、介護の相談役としても高齢者と顔馴染みの関係を持たれている。近隣の中学校職場体験で2名を受け入れ、慰問部会と子供会による母の日訪問やもぐら打ち等、気軽に訪問できる立地の為、地域との交流も密に取り組みされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後は、感染症マニュアルに沿って掲示による認識に努め、又、危険性のある物の保管に倉庫の設置・倉庫の鍵の取り付け等、改善に取り組まれている。自己評価は、複写して職員会議で話し合い、意見を集約して取り組まれている。代表者は、外部評価の結果を一般の方にも見て頂き、外部評価の意義を望まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、現在2回開催され市職員・市会議員・特養施設長・自治会地区長・老人会会表・家族代表2名・管理者・職員で構成されている。内容はグループホームの活動報告(職員研修実績・老人総会で認知症の理解への配信)やグループホーム連絡協議会・外部評価についての報告、出席者より要望・助言など双方向的な充実した内容の会議が開催されている。		

グループホーム あじさいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表者は、老人総会で認知症の理解に向けて講師を努め、地域との連携に取り組まれている。市の職員の形式的な対応に事業所として、もっと協力関係を期待されている。		市の担当者と顔馴染みの関係及び事業所の実情や取り組みを伝え、協力関係をより積極的に働き掛けられる事に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時、利用者の日々の生活状況を報告されている。又、利用者が自分で電話を掛けたり必要に応じ電話連絡をされている。ホーム便りも毎月発送されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の代表が参加、家族の訪問時、意見・要望・苦情等を気軽に話し合い又、家族会を年2回程実施する事により、家族の安心・協力(野菜の持参・行きつけの美容室利用へ同行)に繋がる協力関係への構築に努められている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設5年目を迎え代表者は、職員と入居者が仲良く馴染みの関係が保てるよう、些細な事も心配りに努められ、離職はほばない状況である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、希望の研修受講が可能で、受講に関わる経費も事業所が負担され、受講後、研修報告書の報告により介護知識のレベルアップに取り組まれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加入され、管理者は役員としても活躍されており、相互交流に努められ、地域の介護の質の向上にも独自的に取り組まれている。		

グループホーム あじさいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>今までの生活習慣を大切に考慮し家族の希望も把握して、本人と家族が徐々に馴染んで頂けるように努められている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>様々な経験を経てこられた利用者から教えてもらう姿勢で、日常の会話で思いの受容に努め、職員と一緒に喜怒哀楽を共にして支え合いながら関係性の構築に努められている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の生活歴の把握と、利用後の状況や対話の中でより深く理解する事に努め、日々の生活の充実を図り、芸能訪問の受け入れ・買い物・受診・花や野菜作り等、利用者の意向や希望を聞き逃さないように努め、支援をされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式のフェイスシートを作成され、利用者の思いや意向を暮らしに反映したサービス内容となる介護計画を作成されている。毎月の職員会議や朝夕2回の申し送り、職員との共有を図られている。又、家族には介護計画書の説明を行い、家族の同意と記名捺印が得られている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月の職員会議でモニタリング(毎月)を実施し、一人ひとりの介護計画の実施状況と状態の変化に応じ随時、計画の見直しをして次の計画へ取り入れられている。詳細な記録により有意義な支援に繋がるよう、見直しをしてケアの継続に取り組まれている。</p>		

グループホーム あじさいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望(希望により宿泊も可能)に応じ、柔軟な対応をされ、家族の相談相手となり、安心への継続的支援をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者 - 人ひとりのかかりつけ医や協力医療機関の確保があり、8ヶ月ぶりの受診への気軽な相談や指示により、適切な医療支援がされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の病状の変化に伴い、家族に口答で説明と同意を得て受診の同行をお願いして、それぞれの立場で、できること・できないことの明確化に努めている。又、医療を受け早期退院に向けての家族の要望を大切に話し合い、対応されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりに配慮して言葉掛けに留意され、方言を交え明るく笑顔で接している。食後にソファで寛ぎ、ゆったりと過ごされている。個人情報に関しては、事業所の配慮及び家族の同意も得られている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、介護できることの職務を誇りに愛情を持って介助をされている。レクリエーションの時間にことば遊び・折り紙・カラオケ等、希望に沿って楽しみな事に取り組まれている。		

グループホーム あじさいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホームの菜園で収穫した野菜や手作りの漬物で、食卓を囲み、楽しく食事が出来るよう支援されている。食事は、利用者と共に下ごしらえ等の出来る事の手伝いをして頂き、力量を発揮できるよう支援に取り組まれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴支援は、週3回実施され利用者の希望に沿って配慮されている。入浴拒否される方は、足浴で利用者の入浴への促しと清潔保持に取り組まれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	訪問日は、季節的に戸外は寒くすべての利用者がソファで寛ぎゆったり過ごされ、職員との会話で和やかな雰囲気を感じられた。花や野菜の成長や収穫を楽しみに育てることのできる畑・洗濯物の片付け・買い物等、一人ひとりの意向や力量に応じ張り合いを持ち、喜びのある生活へ出来る事の支援を考慮されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と買い物に行かれる方、外泊や日帰りで自宅に一時帰宅される方等、通院等の機会を設けて外出支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、日中施錠する事無く常に、職員の見守りの徹底を図り利用者の安全に配慮されている。夜間の施錠は、夜勤者との交代後、午後20時～午後20時30分に施錠される。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年3回(自主訓練2回・地域消防立会い1回)夜間想定避難訓練も実施され、消火ホースの長さの確認や近隣の民家に緊急避難場所の協力を得て常に、利用者の安全を考慮して消火用設備(自動火災報知器・火災報知設備)等を設置されている。倉庫に水タンク・米・麺類等備蓄の確保もされている。又、初期消火器操法個人賞も獲得されている。		

グループホーム あじさいの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者にとって食事は楽しみな時間として、季節感・嗜好・摂取量及び水分摂取の把握に努め、食事・おやつで水分摂取1,800ccを目途に飲水の促しをされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掛け軸や玩具で飾られた和室、床暖房の共用空間で利用者がソファに仲良く安心した表情でゆったりと過ごされている。バリアフリーで車椅子でも移動可能なゆとりのあるトイレ・浴室を有し、利用しやすい様工夫されている。又、掃除も行き届き、清潔で家庭的な雰囲気に配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、筆筒・ベッド・使い馴染んだ寝具・日用品等持ち込まれている。利用者一人ひとりの住まいとして顔写真や造花で解りやすく表示され、身の回りをきちんと整理されている方もあり、安心して過ごせる様に支援されている。		